

# 杏林大学医学部付属病院 小児外科専門研修プログラム

## 1. はじめに

杏林大学医学部小児外科学教室は、1973年に診療を開始しました。1994年に初代主任教授の伊藤泰雄先生により講座として開設されました。多摩地域における高度小児医療の中核施設として、新生児から思春期まで幅広い小児外科疾患の診療を担っています。総合周産期母子医療センターを有する大学病院として、出生直後から治療を必要とする新生児外科疾患への対応を行うとともに、救急疾患、悪性腫瘍、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿生殖器疾患、低侵襲手術まで、小児外科診療全般を経験できる環境を整備しています。小児外科医には、高度な外科的技術のみならず、成長・発達を考慮した全人的医療、多職種連携、家族支援、長期予後を見据えた診療能力が求められます。また近年では、胎児診断の進歩、低侵襲手術の発展、移行期医療への対応など、小児外科医療を取り巻く環境は大きく変化しています。

本研修プログラムは、日本小児外科学会専門医制度に基づき、小児外科専門医として必要な知識、技能、態度を体系的に修得することを目的としています。一般小児外科診療を基盤としながら、新生児外科、小児救急、鏡視下手術、周術期管理、集中治療、研究活動をバランスよく経験し、将来的に地域医療から高度専門医療まで担うことのできる小児外科医の育成を目指します。また当科では、「子どもと家族に寄り添う医療」を理念として掲げています。疾患のみを診るのではなく、患児と家族の不安や社会背景にも配慮し、多職種と連携しながら最善の医療を提供できる小児外科医の育成を重視しています。

未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えるため、私たちとともに学び、小児外科医として成長していきましょう。

## 2. プログラムの概要

本プログラムは、日本小児外科学会専門医制度に準拠し、小児外科専門医取得を目的とした研修プログラムです。研修期間中は、基幹施設である杏林大学医学部付属病院を中心として、小児外科領域全般の診療を経験します。新生児外科疾患、急性腹症、小児救急疾患、呼吸器外科疾患、腫瘍性疾患、泌尿生殖器疾患、鏡視下手術など、多様な症例を通じて診療能力を習得します。また、NICU、PICU、麻酔科、小児科、産科、救命救急センターなど関連診療科との連携を通じて、小児周術期医療に必要な総合力を養います。さらに、学会発表、論文作成、臨床研究を積極的に行い、臨床医としてのみならず研究マインドを持った小児外科医の育成を目指します。

### 3. 当科の特色

#### 1) 新生児外科を含む幅広い小児外科診療

総合周産期母子医療センターを有しており、食道閉鎖症、腸閉鎖症、先天性横隔膜ヘルニア、腹壁破裂、ヒルシュスプルング病などの新生児外科疾患を経験できます。出生前診断症例への周産期管理にも関わることができます。

#### 2) 小児救急・急性腹症への対応

多摩地域の高度救命救急医療を担う施設として、腸重積、虫垂炎、外傷、消化管穿孔などの小児救急疾患を経験できます。

#### 3) 鏡視下手術の修得

腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術を導入しており、低侵襲手術の基本技術から応用まで段階的に学ぶことができます。

#### 4) 多職種連携によるチーム医療

小児科、新生児科、産科、外科、麻酔科、リハビリテーション部門、医療ソーシャルワーカーなどと連携し、包括的な小児医療を実践しています。

#### 5) 研究活動・学術活動

国内外学会での発表、論文作成を積極的に支援しています。臨床研究のみならず、基礎研究への参加も可能です。

### 4. 研修目標

#### 1) 一般目標

小児外科専門医として必要な知識・技能・態度を習得し、小児患者と家族に対して全人的医療を提供できる能力を身につける。

#### 2) 到達目標

##### ① 診療能力

- ・小児外科主要疾患の診断・治療方針が立案できる
- ・鑑別診断と重症度の評価を行うことができる
- ・術前・術後の周術期管理とリスク評価ができる
- ・小児救急疾患への初期対応ができる
- ・家族に対する適切な説明と意思決定支援ができる

##### ② 手術技能

基本術式を習得し、さらに高難度手術にも積極的に参加します。

### **基本術式**

- ・鼠径ヘルニア根治術
- ・臍ヘルニア根治術
- ・陰嚢水腫根治術
- ・停留精巣固定術
- ・虫垂切除術 など

### **高難度術式**

- ・新生児手術
- ・胸腔鏡・腹腔鏡手術
- ・胆道閉鎖症手術
- ・胆道拡張症手術 など

## **5. 研修内容**

### **1)一般外科研修**

杏林大学医学部外科専攻プログラムに従い、2年間の初期臨床研修修了後、卒後3～5年目でまず一般外科研修を行います。関連病院において指導責任者のもと、消化器・一般外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科などを経験し、外科専門医取得に必要な基本的診療能力および手術手技を習得します。

### **2)小児外科研修**

卒後4または5年目から本格的に小児外科研修を開始します。以下の領域を中心に研修を行います。

- ・新生児外科
- ・一般小児外科
- ・呼吸器外科
- ・小児腫瘍外科
- ・鏡視下手術
- ・周術期管理
- ・集中治療

難易度の高い手術においては、綿密な術前評価および手術計画について十分に検討し、安全性を重視した診療を行います。

### **3)関連部門研修**

NICU、麻酔科、小児科、産科など関連診療科と連携し、小児周術期医療に必要な総合力を養います。

専門研修	卒後年数	研修内容と目標	資格等
1年目	卒後3年目	関連施設にて成人外科研修を行い、外来診療、手術手技、術後管理などを習得する。	
2年目	卒後4年目	成人外科研修にてより高度な知識と手技を習得する。外科専門医取得に必要な手術経験を充足させ、外科に必要な基礎的な知識を身に付けて、基本的な手技を一人でおこなえるようになる。	
3年目	卒後5年目	小児外科の研修を開始する。大学病院に配属し、指導医のもとに、鼠径ヘルニアなどの基本的な手術手技を学び、術前・術後管理の知識を身につける。	外科専門医
4年目	卒後6年目	小児外科執刀経験を積む。	
5年目	卒後7年目	学会発表などの学術的な経験をしつつ、小児外科疾患を幅広く学ぶ。	小児外科専門医
6年目以降	卒後8年目以降	高難度症例の執刀ができるように研鑽を積みつつ学術的な実績も重ねていく。	

## 6. 学術活動

日本小児外科学会学術集会をはじめとする各種学会への参加・発表を推奨しています。また、症例報告や原著論文作成を積極的に支援し、研究マインドを持った小児外科医の育成を目指します。

## 7. 評価方法

手術症例数評価、指導医評価、年次面談、学術活動評価を通じて総合的な評価を行います。

## 8. 日本小児外科学会専門医申請に必要な臨床実績と学術経験

1) 以下に定める手術経験を有すること。

- ・小児外科手術 150 例以上の執刀経験
- ・新生児 20 例以上の手術経験（うち 5 例以上は執刀経験）
- ・5 歳以下乳幼児 100 例以上の執刀経験
- ・鼠径ヘルニア類以外 50 例以上の執刀経験

2) 学術経験

筆頭演者としての学会発表および論文発表を必要とする。

- ・小児外科に関する論文または症例報告 1 篇以上
- ・日本小児外科学会学術集会または秋季シンポジウムへの参加 1 回以上
- ・規定単位数以上の取得

## 9. 週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土
7:30	朝回診	○	○	○	○	○	○
8:00	小児科合同カンファレンス			○			
8:00	産科合同カンファレンス（第2週）			○			
8:30	病棟患者カンファレンス			○			
9:00	手術(水は午後のみ)			○	○		
16:00	夕回診	○	○	○	○	○	
18:00	小児気道カンファレンス（第2週）			○			
18:30	外科合同カンファレンス（年3回）			○			

## 10. キャリアパス

本プログラム修了後は、小児外科専門医取得を目指し、地域小児医療、高度専門医療、周産期医療、小児救急医療など幅広い分野で活躍することが期待されます。

また、大学院進学や臨床研究、国内外留学など、個々のキャリア形成に応じた支援を行っています。

## 11. スタッフ一覧

医師名	役職	専門分野 (特に専門とする領域)	資格等 (指導医、認定医、所属、その他)	外来診療日 (曜日)
渡邊佳子	学内講師	小児外科一般	日本外科学会外科専門医・指導医 日本小児外科学会認定小児外科専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会認定外科医 日本がん治療認定医	火曜日（午前）・金曜日（午前） 土曜日（午前） 火曜日（午後）(便秘外来)
加藤源俊	助教	小児外科一般 特にリンパ管腫・鎖肛（直腸肛門奇形）	日本外科学会外科専門医 日本小児外科学会認定小児外科専門医 日本周産期・新生児医学会認定外科医 日本がん治療認定医	月曜日（第1・3・5午前）
浮山越史	客員教授	新生児手術、腹腔鏡手術、漏斗胸手術、 泌尿器手術、小児救急	日本外科学会外科専門医・指導医 日本小児外科学会認定小児外科専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会認定外科医 日本小児救急医学会副理事長 日本小児期外科系関連学会協議会事務局長	月曜日（第2・4午前） 土曜日（第1・3・5午前）



問い合わせ先

杏林大学医学部附属病院 小児外科  
医局長 渡邊佳子

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL : 0422-47-5511

E-mail: nabey@ks.kyorin-u.ac.jp